

# 1 号議案

## 平成 28 年度事業報告

### ●はじめに

平成 28 年の国際環境は正に混乱に終始しました。相変わらず大国の覇権主義が幅をきかせ、宗教がらみのトラブルが発生しました。難民問題では世界中がその渦に巻き込まれました。英国のEU離脱をはじめ、後半はトランプ旋風一色となり彼の一举一動に世界の目が向いています。一方日本に目を転じれば少子高齢化はさらに進み、平成 28 年 9 月 19 日政府の推計では 65 歳以上の高齢者は 3,461 万人（高齢化率 27.3%）となり世界一の超高齢化社会になりました。

大阪府高齢者大学校（以下高大という）は 2,605 名の受講生を受け入れ、大阪区民・府民カレッジ 257 名、法円坂子どもプラザ 46 名と高大グループとしては 2,908 名の仲間が集う日本有数の国立民営のボランティア団体となりました。

また、「5 年先を見据えた戦略」のアクションプランもいよいよ実施の段階に入って参りました。

### ●基調報告

1. 認定 NPO 法人の資格取得が事務上のミスにより遅れましたが、現在、来年度取得申請に向けて準備中でございます。
2. 大阪府との関係は、平成 28 年 5 月 22 日をもって従来の「共催」から「協賛」となりました。これは大阪府の政策・考え方によるもので、従来の協力体制には一切関係ありません。瑕疵問題が懸念材料ですが、高大で対処する所存です。
3. 校友会との連携を深めるため、秋には金沢方面への旅行を企画するなど、高大と校友会、特に同窓会連協との親睦が図りました。
4. 国家戦略特区養父市とは、連携協定に基づき定期的交流を実施しました。夏には高大から 17 名が養父市を訪問し、先方は部長以下 15 名の関係者の出席の下、意見交換と今後の活動計画を作成しました。  
また、スポーツ交流大会では養父市特産品の販売を行いました。
5. BSC (Bright Senior Center) 部門を新設し①V. CONCIERGE ②DDS・AWARD の 2 つの部をおきました。併せて校友会内にも V. CONCIERGE を配置し、密接な情報交換ができる体制にしました。
6. 高大 10 年記念誌の執筆を進めてきましたが、4 月には発刊の運びとなりました。「高齢者が動けば社会が変わる」“NPO 法人大阪府高齢者大学校”の書名で発売します。全受講生の必読書として講座に活用することとします。
7. 教育部門では講座改革委員会を発足させ、先駆的カリキュラムに挑戦し 64 科目から 63 科目に厳選しました。また、曜日部長の負担を減らし本来の業務に没頭できる体

制を確立しました。

8. 東日本被災者支援大学校として毎月の被災者交流会を実施し、8月には東北ボランティアツアーを行い、義援金 20 万円を南三陸町にお渡ししました。熊本地震に対しては寄附金を募りチャリティコンサートの売上金の一部と合わせて 120 万円超を熊本県に義援金としてお渡ししました。
9. 子どものための法円坂子どもプラザ・科学実験講師養成講座を一年間に亘り実施しました。さらに大阪府全体に向けて第一回「子ども科学フェスティバル」を実施し、1,000 名以上の参加があり盛況となりました。
10. 事業部門では年 2 回の音楽会を実施しました。四天王寺等の助成金事業は継続推進していきます。
11. 姉妹校の大阪区民カレッジは活動範囲を拡大し府下にも進出しており、大阪府民カレッジを新たに新設しました。業績も順調に推移しており、安定した運営が定着しつつあります。
12. 大阪アクティブシニア協会では、アクティブシニアがあふれる大阪事業を 6 ブロックで実施しました。(大阪府助成事業) 又、3 月にはアクティブシニアフェスタを開催し大いに盛り上がりました。
13. 関西シニア大学校交流会を 10 月に開催し、11 校 154 名がなにわのみやホールに集合し交流しました。今回は共同宣言が採択され関西から全国に向けて生涯学習機関としての使命を発揮することを誓いました。

## ●教育部門

1. 受講生（被災受講生 5 名含む）2,605 名を迎え入れました。科目数は 63 科目で運営いたしました。教務委員会のメンバーを一新すると共に、クラスディレクター（以下 CD）会議は、四半期ごとの開催に改め、体制の強化、改善を図りました。曜日 CD 会議は、継続して毎月開催し、CD との連携を深めると共に、迅速に身近な課題解決に努めました。  
5 回目となる CD 研修会は、曜日ごとに再任者/新任者を別けてきめ細かく実施し、更に研修内容の充実強化に努めました。加えてフォローアップ研修も実施することに致しました。
2. 本科教務部・実践研究部は、従来の曜日担当教科部長によるクラス運営の強化を図りました。教科研究部は、分野別に担当部長を 9 名配置し充実してきたことにより、受講生のニーズを反映できるカリキュラム開発の体制が整備できました。
3. カリキュラムでは、教科研究部内の検討を充実させると共に、講座改革員会を運営し、受講生ニーズを的確に把握し、魅力ある新規講座を 3 科目開設しました。
4. 学習事業推進部では、主たる行事毎に受講生が主体となり高大と協働体制で推進できるように受講生の自主性と運営の一部改善を実施致しました。
5. 高大と校友会とは、両輪との方針を実践すべく、BSC 部門と連携し、SA クラス、本科クラス、実践研究部クラスとの交流を図るなど校友会との連携を強化した活動を実践いたしました。

## ＜本科教務部＞

1. 本科は 42 科目から 45 科目に増設し、1,923 名の受講生を受け入れました。  
CD は継続して 2 名体制でクラス運営を行い体制の強化を図りました。午後に行うクラスミーティングは、本音の議論、楽しい雰囲気づくりを目指し一年間を通じて良い仲間づくりを継続して展開しました。更に、校外学習を併行し、社会への参加活動についても充実させるべく授業を推進しました。
2. 5 年目の取り組みとなる高大白熱教室を、さらに深化させるべく取り組み、受講生の評価についても改善しました。講師陣に対しても CD を通じて、相互検討を行い、レベルアップを図りました。今後も、受け身型の学習スタイルから能動的に人前で闊達に発言できる学習スタイルが少しでも身につくように授業の運営を講師、CD と協働で進めて参ります。
3. 講師交流会を 9 月に実施しました。交流内容を更に充実させるため、曜日別から分野別に切り替えて行いました。今後、更に今までに出席されていない講師の方々にも出席していただける様 企画して参ります。
4. CD 会議については、今年度から内容の見直しを図ると共に開催頻度を四半期ごとの開催に変更しました。
5. 4 項の実施により、曜日別 CD 会議を更に充実させ、情報交換、問題提起・課題解決を図ると共に、CD の連帯感を高め、授業の円滑な運営に繋がりました。

## ＜実践研究部＞

1. 18 科目（シルバーアドバイザー養成科 3 講座含む）682 名を受け入れて開講し、前期からの「学習としての社会参加活動」の趣旨を受け継ぎ、各科独自の社会参加活動を実践し、それぞれ効果をあげるべく努力をしております。
2. 学習成果を活かした社会活動が多岐、多様にわたり社会・地域への活動が進みました。今後、BSC 部門と連携を強化し進めて参ります。

## ＜教科研究部＞

1. 魅力あるカリキュラム・講師発掘を目指した活動を継続して実施すると共に、科目の新陳代謝や受講生目線に立った科目構築を目指しました。  
その結果として、平成 29 年度の募集は新規科目で定員を大幅にオーバーする程の応募者があり、また 2,737 名の受講生募集に対して、募集数にほぼ一致する 2,725 名の受講生が入学されました。
2. 分野別専門部会による講座改革だけでなく、新たに全高大生を対象に新規科目、バージョンアップ科目、聴講してみたい講師などに関する情報収集を図る提案制度の導入に着手しました。今後の講座改革に明るい兆候も表れつつあります。
3. 途切れていた全受講生を対象にしたアンケートを再開しました。今後は継続して実施し、シニアの動向、受講生の動向などを的確に把握し、講座改革に反映する予定です。

4. 人材バンクシステムの運用に着手し始めましたが、本格的に運用するには課題もあり、今後は課題対応を進めながら運用を促進します。
5. 魅力ある講座をさらにフォローアップする、あるいは一般市民の方々の関心のあるテーマを選定した市民公開講座を9回実施しました。

### <学習事業推進部>

1. 遠足、スポーツ交流大会、高大祭、社会への参加活動、学習成果発表会、修学旅行などの学習事業では、受講生代表委員を支援運営いたしました。  
また、クラブ活動の充実を強化し、自らの趣味と経験を基にした仲間づくりを推進しました。
2. スポーツ交流大会及び高大祭の実行では、学習事業実行委員会が推進母体となり受講生、校友会、大阪区民・府民カレッジと一体となって実施致しました。特に、今年度はスポーツ交流大会、高大祭に専任の実行委員長を置き、学習事業実行委員会を推進して内容の充実に努めました。  
更に本年度も養父市との連携協定の一環としてスポーツ交流大会へ特別参加を頂き、昨年以上に参加者からも良い評価を得ました。

### <校友会連絡部>

1. 新しく設置された高大 BSC 部門と協力して、63 教室を訪問し校友会への入会募集活動を推進しました。
2. 高大主催のスポーツ交流大会、高大祭、夏・冬の音楽会等に参加協力をしました。
  - (1) 高大主催の行事に参加し校友会入会募集活動を促進しました。
  - (2) 同窓会連協の「文化祭」への参加協力や「教養講座」への参加協力を推進し、高大用のパネルを用意し非常に評判の良かった5教科の展示を行いました。
  - (3) 高大と校友会との共催で実施する親睦一泊旅行への参加協力を推進しました。
  - (4) 高大祭への協力として模擬店だけでなく、校友会メンバーや、同窓会連協各地区の役員や会員が数多く参加しました。
3. 校友会主催の文化祭開催に向けて検討しましたが、まだ合意には至っておりません。

### <大阪区民カレッジ推進部>

1. 平成 28 年度は中央校、北校、城東校、天王寺校、西校に加えて大阪府下には NPO 法人大阪府民カレッジを設立し、東大阪校が開校しました。地域密着型カレッジとして、合計 6 校、257 名の受講生を受け入れました。
2. 高大のスポーツ交流大会、高大祭等に参加し、姉妹校として、共に楽しみました。また、地域密着型カリキュラムの実践や地域参加活動にともに取り組みました。
3. 大阪市内、大阪府下に地域密着カレッジの設立希望が寄せられ、平成 29 年度には大阪区民カレッジ東成校、大阪府民カレッジひらかた校が開校することができました。

## <大阪アクティブシニア協会推進部>

1. 大阪府委託事業「アクティブシニアがあふれる大阪事業」を府下6ブロックにおいて「適度な運動とストレス対処法」「音楽療法による介護予防と健康維持」「里山保全と環境マネジメント」というテーマで、アクティブシニア養成講座を開催しました。
2. 「アクティブシニアフェスタ2017」を大阪市立北区民センターにおいて、平成29年3月9日に開催し、約1,050名の来場者で盛況でした。
3. 大阪市内小学校いきいき教室、デイサービス、全労済委託の手作りおもちゃ教室の催事など大阪出前サポートバンク事業を実施しました。

## <シニアスポーツ推進部>

1. 生涯スポーツディレクター(以下SSD) 高大グループは高大スポーツ交流大会で競技指導・審判協力、シニア向けのニュースポーツの出前サポートに協力を行いました。
2. 「大阪マラソン」440名、「大阪国際女子マラソン」200名のボランティアが参加し大阪府及び、産経新聞社から多大なる謝辞を頂きました。
3. (公財)日本相撲協会との提携で大相撲名古屋場所・大阪場所の切符斡旋を行い、約110名の方々が大相撲観戦いたしました。
4. 生涯スポーツディレクター養成講座を、平成28年7月に30名で実施しました。
5. 「河内音頭大会」八尾市久宝寺緑地へ高大、同窓会連協東部、八尾、南部の4団体が参加しました。
6. 脳トレの一環として、「スポーツ健康麻雀大会」を年2回実施しました。

## ●事業部門

### <渉外部>

1. 文化庁・文化遺産を活かした地域活性化事業で「四天王寺の歴史に学ぶ」をテーマとして以下の事業を開催しました。
  - (1) 「四天王寺の歴史講話と探訪」を平成28年10月2日、四天王寺に於いて開催し、57名の参加がありました。
  - (2) 「雅楽・舞楽のひととき」を平成28年11月20日、大阪歴史博物館に於いて開催し、185名の参加がありました。

### <福祉部>

1. 「普通救命講習会」を大阪市消防振興協会により、平成28年5月23日、9月16日なにわのみやホールに於いて開催し、合計38名の参加がありました。
2. 「だまされへんで!悪質商法」を大阪府東警察署により、平成28年7月20日なにわのみやホールに於いて開催し150名の参加がありました。

## <イベント部>

1. 「熊本地震復興支援 チャリティーコンサート」を平成 28 年 7 月 18 日、大阪市中央公会堂に於いて、歌手李広宏さん他の出演協力を得て開催しました。義援金 327,958 円は熊本県大阪事務所に寄贈しました。
2. 「第 5 回夏の音楽会 フォトオペラ」を平成 28 年 8 月 27 日、関西歌劇団の出演により、エル・おおさか エル・シアターに於いて開催し、296 名の参加がありました。
3. 「第 9 回いずみホール音楽会」を平成 29 年 3 月 4 日、大阪音楽大学ジャズオーケストラ、長島雅枝さんの出演により、いずみホールに於いて開催し、616 名の参加がありました。

## <東日本被災者支援大学校>

1. 被災者 5 名から受講申込みがあり、受講料を全額免除し迎え入れました。
2. 被災支援者との交流会を 7 回開催し、避難されている受講生との交流を実施しました。
3. 牡蠣養殖の復興を願い、ヤマヨ水産（宮城県気仙沼市）のオーナー制度に申込みました。
4. 「被災地支援ツアー」を平成 28 年 8 月 22 日～24 日 2 泊 3 日で実施し、気仙沼市、南三陸町、南相馬市他の復興状況を視察、研修しました。  
南三陸町では、佐藤 仁町長から被災状況と復興の進捗状況を聞き、義援金 20 万円を寄贈しました。

## <高大＝養父市学習連携事業>

1. 連絡会議を 3 回（平成 28 年 4 月 15 日、8 月 4 日～5 日、平成 29 年 1 月 20 日）に開催し、人的交流、地域おこしその他を協議しました。
2. 公益社団法人養父市シルバー人材センターと棚田利用契約を締結し、収穫された「温石米」は高大祭で賞品として提供しました。

## ●情報管理部門

### <教務事務部>

1. 受講生台帳の 2,605 人の集計管理と出席簿の学期単位のデータベース化並びに修了証書・皆勤証書の発行を行いました。
2. CD の交通費と講師の謝金の管理システムにて円滑に運営しました。

### <システム部>

1. 募集データの集計システムと個人情報の管理、入学準備の体制づくりを行いました。
2. 募集申し込みを、ホームページから出来るシステムを導入し 500 人以上の利用者がありました。

## <子ども事業推進部>

1. 「法田坂子どもプラザ」 科学実験とモノ作り教室を年8回、子ども英会話教室を7回、科学実験講師養成講座を8回開催しました。
2. 第6回「法田坂子ども教室フェスティバル」は7月に開催しました。
3. 第1回「大阪科学フェスティバル」は北区民センターで約1000人の入場者で行いました。
4. 「ITパソコンお絵かき教室」は近隣小学校・幼稚園を中心に18回開催しました。

## <ホームページ部>

1. 募集要項、オープンキャンパス、講座説明会、カリキュラムと募集の情報をタイムリーに最新情報を提供しました。
2. 高大「イベント」の告知と報告のスピードアップを図りスマートフォン対応になりました。
3. クラスブログは27クラスと3クラブが高大ホームページにリンクしました。
4. 高大ホームページは4月からリニューアル。これまでより内容の充実、スピードアップ化を図ります。

## ●BSC 部門

社会参加活動への推進を図るべく平成28年9月にBSC部門を設立しました、

## <V. CONCIERGE 部>

昨年度SA講座修了生（7期生）の大阪府知事のシルバーアドバイザーの認定業務を遂行、10月に認定証授与式を開催しました（授与者57名）。

大阪府内各地域に46人の『V. CONCIERGE』を配置し、修了後の社会参加活動の窓口業務を務めると共に、全63クラスを訪問し校友会紹介、入会案内を行いました。

## <DDS・AWARD 部>

DDS活動を募集、54件（団体）の申請があり、2月8日に発表会を開催、また『KOUDAI AWARD』36件の応募があり、内3件の表彰式を開催し、具体的活動事例の発表会を開催しました。

## ●戦略部門

## <調査・政策部>

1. 関西シニア大学校交流会及び勉強会  
平成28年度第5回関西シニア大学校交流会は、同年10月28日～29日の両日大阪府において154名の参加者を迎え開催されました。今回の交流会は単なるお祭りではな

く活動を実践することをテーマに実行委員会で検討を重ねて来ました。また、その活動内容を具体的にするため7月6日の勉強会での議論を基にして共同宣言案が立案され、交流会では満場一致で採択されました。これは今後の活動を大きく進展させるシンボリックな取り組みとなりました。

## 2. 5年先を見据えた戦略

前年度の首都圏等の生涯学習支援機関などの調査活動の内容を踏まえて同窓会活動や社会参加活動の顕彰等の取り組みに対する企画提案を行ない、新たに設置させたBSC部門の創設によりDDS活動、KOUDAI AWARDの取り組みとして具体的な活動が展開できました。

## 3. 高大10周年記念誌の刊行

平成26年7月より約1年半以上のスパンを掛けて22名の実行委員会メンバーと共に編集活動を行ない「高齢者が動けば社会が変わる」と題し、「NPO 法人大阪府高齢者大学校の挑戦」を副題に出版編集作業を推進しました。

特に2度に亘る座談会において社会参加活動の具体的な展開に向けた論議をふまえ、記念誌を特別教材としてカリキュラムに活かすこととし、具体的な推進活動も計画してきました。

## <人材発掘事業開発部>

1. 教育部門のスタッフの協力を得て、新おでん会議を2回行い27名の参加者を得ることが出来ました。
2. 初めての試みとして、高大祭においてブースを出展し高大および関連組織への参加を呼び掛けました。この経験から今後は新たな人材開発を目指す担当として活動手法の見直しが必要と考えています。

## ●広報部門

### <広報部>

広報誌「れいんぼー」は年4回(5, 9, 11, 1月)をオールカラーで発行。インタビュー、対談方式などを取り入れて読みやすい紙面作りを推し進めました。

### <パブリシティ>

1. メディア対策：メディアにプレスリリースによる取材依頼を1年間実施したが、新規受講生の応募数に影響がなく成果も不明確であり、紙媒体偏重による広報の見直しを検討します。
2. 企業対策について、昨年度高大の社会的認知度向上、新規受講生の獲得を目的に、企業に協賛の依頼を実施し、34,000部の募集要項等を企業(11社)のOBに配布・PRを行いました。



## <募集委員会>

1. 第1回募集委員会を4月15日に開催し、前年度の応募結果と科目選定と定員及び地域別受講生の分布を分析、検討しました。「平成29年度受講生募集」は募集開始日を平成28年10月3日、募集締切日を12月9日午後5時までとし、大阪府からのプレス発表を9月初旬にするように依頼しました。
  - (1) 高大に初めて受講される「優先入学制度」を導入し新規入学を推進しました。
  - (2) 年齢・居住制限に拘わらず自由に受講して頂けます。
2. 本科47科目、SA養成3科目、実践15科目で計65科目2,725名の応募を達成しました。前年に比べ、「日本の京(みやこ)探訪科」「ボイスレコーダでシニアライフを楽しむ科」「身の回りに関する法律を易しく学ぶ科」「鉄道を学び旅を楽しみません科」の4科目を新しく増設し、「大阪の歴史遺産探訪科」「基礎美術科火曜コースと金曜コースを統合」の2科目休講と致しました。
3. 大阪府の府政だより・大阪市・堺市ほか各市に区民だより、市政だよりに掲載をお願いしました。
4. 募集要項は32頁を15,000部、12頁を65,000部印刷し、大阪府、大阪市、堺市の公共施設のご協力頂き配布致しました。大阪市サービスカウンター3か所とピース大阪の地下鉄ラック5か所にも配布し、大阪府中央図書館での高大紹介コーナー・美術展でも配布し、又今回、初めて大阪府下に本社を置く企業OB会・同窓会にも12頁の募集要項とチラシを約1万部 配布致しました。
5. 新聞広告(読売・朝日・毎日・サンケイ)は講座説明会を告知する広告に切り替え又いちょう並木の裏面広告に9月から11月の3回、オープンキャンパスと募集要項の全面広告を行いました。又NHKラジオやラジオ大阪での番組で紹介頂き新規受講生の増加を図りました。
6. 講座説明会は新規受講の促進のために、茨木市・吹田市・大阪駅前と3回増やし、従来の本校2回、千里・枚方・堺東と計8回実施し募集の浸透をはかりました。
7. 市政だより、区民だよりの掲載状況を大阪府・地区SA・同窓会に依頼し、各理事・CDには募集要項の残数チェックと追加を依頼し徹底を図りました。
8. HPでは初めて募集申込の受付を行い、多数の成果を上げました。又、リアルタイムな募集状況の更新により、閲覧数も増え、申込数の増加に繋がりました。
9. その結果、「平成29年度受講生募集」は65科目2,725名(昨年2,605名)の受講生の入学が決定しました。

## ●総括部門

### <事務局>

平成28年度は、講座63科目にて5会場(教員会館、福社会館、谷町福祉センター、住之江教室、森之宮ホール)に分散され、受講生の方々には、共通講義、クラブ活動及び受講生間の交流等でご不便をお掛けしましたが、来年度では、教員会館において新た

に2教室が確保出来るようになり谷町福祉センター分は教員会館に集約できましたので、平成29年度は改善され良くなると思います。

### <経理部>

平成29年度認定NPO法人取得に向け、経理部門の精度向上を目指して努力してまいりました。その結果経理処理について格段に改善できました。

### <ファンド・社会事業部>

平成27年度と28年度の実績を基に、認定NPO法人取得に向け推進中で、一口3,000円以上の寄附者を年間100口以上で集って参りましたが、お蔭様で2年間220口の寄附が集まり要件を満たす事が出来ました、厚く御礼申し上げます。

今後もイベント及び社会貢献事業などの機会に募金活動を続けて参ります。

## ●第6回スポーツ交流大会報告

第6回大会は10月12日エディオンアリーナ大阪（大阪府立体育会館）で、2,278名の参加者を得て、終えることが出来ました。

新しい企画として、競技は従来の講座対抗戦から曜日対抗戦で、勝敗はポイント制を取り入れました。

競技種目としてはニュースポーツと団体競技（陣取りゲーム、玉入れ競技）を行い、自由参加競技種目、体力測定も同時に実施しました。体力測定については受講生の健康管理への認識も高く、参加者の半数、約1,000人の参加がありました。

イベント企画は阿波おどり、河内音頭を取り上げました。その他、養父市からの物産展・即売会が行われ、皆様のご協力を得て、大盛況に終えることが出来ました。

## ●高大祭

第8回目となる高大祭は、12月15日吹田メイシアター全館貸し切りの下で行われ、初めて3,000名を超える参加者で賑わいました。

ファッションショーや講師による特別演技など工夫を凝らした演芸。お楽しみ抽選券による公開抽選会。参加者の投票による表彰。高大名物長寿ずしの販売など新しい企画を取り入れた結果、大きく盛り上がり、かつてない盛況な高大祭となりました。

バザーでも昨年を上回る協力を受け、新潟糸魚川大火災（20万円）、東日本大震災（10万円）、熊本大震災（10万円）へ義援金をお渡ししました。

## ●学習成果発表会

一年間の学習の総まとめとして、平成29年3月6日～10日に全クラスにおいて、学習成果発表会を行いました。班単位の発表や個人別発表など各科の特徴を生かし、創意工夫に富んだ盛り沢山な内容でした。年々、レベルが向上しております。

受講生自身が企画・運営する展示会や展覧会を開催し、学習成果を外部に対して発表する取り組みも行われました。特に、美術分野の7科によるATC合同展示会は、特筆すべきものでした。

なお、活動成果をまとめられた文集などは、今後の受講生の活動の参考にするため高大事務所（講師控室）に保管しています。

## ● 修学旅行

修学旅行を実施いたしました。行先は主に京都・滋賀などの近畿県内で全体の約75%を占め、ソウル・南九州など遠方もありました。日帰り（69%）・宿泊等（31%）柔軟な企画を実施されました。

実施日：平成29年3月13日～平成29年3月17日

集計（行先・日帰り・宿泊）

	日帰り	宿 泊	日帰と宿泊
近畿（大阪・京都・奈良）	16科	2科	2科
近畿（滋賀・和歌山・兵庫）	16科	6科	
中部・東海（三重・愛知）	3科	1科	
四国（徳島）	3科		
中国（岡山）	3科	1科	1科
その他（韓国・九州・静岡）		5科	

## ● 高大なにわの宮会

【元気な風 ふかそう】を合い言葉に、高大内の風通しを良くすることを目的に、以下の様な活動を展開いたしました。

### 1. 挨拶運動

風通しの良い環境作りは挨拶からとの考えから、登校時の挨拶運動を実施しました。新学期、2学期、3学期の初めの1週間、および毎月定めた挨拶の日には、理事長以下高大スタッフと高大・なにわの宮実行委員が玄関に立ち、挨拶で受講生を迎える活動を展開しました。その結果、回を重ねるにつれて受講生からの反応も良くなり活動の効果を感じる様に成りました。平成29年度も、継続して実施します。

### 2. 交流活動

#### (1) 受講生との対話

受講生との交流の場として、理事長を囲む会「〇〇さんとお昼のティータイム」を設定し、受講生の意見、要望を汲み上げ、適切に解決して行く活動を展開しました。

平成28年度は、21科目について実施しましたが、お互い自由に意見を述べ合うことが出来る環境が出来てきたと考えます。この場に出た意見要望は、出来ることは速やかに対策を実施し、時間がかかるものも中長期的に対応して行くことにしています。

### 3. 支援活動

#### (1) 熊本地震復興支援

第一弾として、募金活動で集まった義援金 64 万円を、4 月 27 日に熊本県大阪連絡事務所にお届けしました。それ対し、蒲島熊本県知事より感謝状が届けられました。

また、第二弾として大阪市中心公会堂で開催された熊本地震復興支援チャリティコンサートでの収益金と義援金 21 万円を熊本県へお届けしました。

#### (2) 眼鏡リサイクル活動

ライオンズクラブ国際協会が進める眼鏡リサイクル・プログラムを支援する活動を行い、受講生から提供を受けた眼鏡 158 本をライオンズクラブに贈呈しました。

### 4. 広報活動

#### (1) ブログ立ち上げ

高大なにわの宮会のブログを立ち上げ、活動内容を掲載し公開中です。

#### (2) 川柳広場

受講生間の交流の場として「高大なにわの宮会川柳の広場」を設け、川柳 4 回にわたり募集しました。(お題は、第 1 回：入学・仲間、第 2 回：笑う・泣く、第 3 回：スポーツ交流大会・高大祭、第 4 回：プレゼント・願う)。優秀作品は、広報誌「れいんぼー」に掲載しております。

## ● クラブ活動

平成 28 年度のクラブ活動は、31 部門、550 名の参加で実施されました。

前年より減少しましたが、参加された受講生の皆さんは大変熱心に活動されと感じております。その理由の一つに、高大祭で優秀部門の投票を受講生にして貰い、選ばれた作品を修了式や他グループ祭に出演してもらおう計画としました。

その結果、修了式では「水曜日 南京玉すだれクラブ」が選ばれ、ヤンヤの拍手喝采でした。また、校内と校外活動クラブの比率は 26 対 5 で前年度に比べ校外活動の比率が下がりました。

今年度の教室利用については、1・3 学期は 4 回～2 回/月、2 学期は 2 回/月とし、教室利用の混乱を防ぐ為に「クラブ活動実施予定表 (学期別)」を CD 経由で提出して頂きます。最後に 1 年間を通して事故報告がなかったことは関係者一同の喜びでもありました。

クラブ活動内容については次頁の表を参照ください。

## 平成28年度「クラブ活動」一覧表

		クラブ名	科 目
月曜日	1	太極柔力球クラブ	宇宙と生命の神秘へ遭遇する科
	2	月曜マジックを楽しむ科	宇宙と生命の神秘へ遭遇する科
	3	月曜マジッククラブ	カメラ芸術研究科
	4	ちぎり絵	歴史に輝く先人たちの生き方に学ぶ科
	5	ワクワク英会話クラブ	基礎英会話科
	6	大阪フォオトグラフィⅡ	カメラ技術研究科
	7	高大朋映詩吟クラブ	歴史に輝く先人たちの生き方に学ぶ科
	8	国際交流を進める会	国際文化交流科
	9	ノルディックウオーキングを楽しむ会	シニアの健康と医療を優しく学ぶ科
火曜日	1	みんなのコーラス	音楽鑑賞を深める科
	2	パレフォトクラブ28	カメラ芸術創作科
	3	写楽会	和食を愛する科
	4	歴史街道散歩クラブ	英会話交流を楽しむ科
	5	ストレッチクラブ	和食を愛する科
	6	絵画を楽しもう会	基礎美術火曜コース
	7	M~Learning English ConverSation	アウトドア・レクレエーション科
水曜日	1	みんなでオカリナを楽しむ会	自然文化を楽しむ科
	2	史跡めぐり部	豊かな日本専門史を学ぶ科
	3	高大南京玉すだれクラブ	おしゃれを楽しみません科
	4	スマホスタートクラブ	豊かな日本専門史を学ぶ科
	5	水曜素人マジック	総合文化を身につける科
木曜日	1	ものづくり研究会	おもしろ「子ども科学・手作りおもちゃ体験」科
	2	朗読を楽しむ	朗読を楽しむ科
	3	フォトクラブエイアンドエス	カメラ芸術科
	4	二・四山の会	大坂のまち歩きガイド科
金曜日	1	高大ボーリングクラブ	スポーツ・健康科
	2	社交ダンスで生き生き人生	フランスの魅力と初めてのフランス語を楽しむ科
	3	絵画教室「ひまわりの会」	基礎美術科金曜コース
	4	Brians Children	礎英会話科金曜コース
	5	ハーモニカでも吹こう会	大坂のまち歩きガイド科
全	1	高大駅伝部	和食を愛する科